

1. 統 計

1.1 人口統計（令和 5 年人口推計：総務省統計局）

- 日本の総人口は、1 億 2435 万人（↓）である
- 老年人口（65 歳以上）は、29.1%（↑）を占める
- 令和 38 年（2056 年）には、総人口が 1 億人を下回る

年少人口	0-14 歳	1417万人	11.4%（↓）
生産年齢人口	15-64 歳	7395万人	59.5%（↓）
老年人口	65 歳以上	3623 万人	29.1%（↑）

1.2 世帯構造（令和 5 年国民生活基礎調査：厚生労働省）

- 総世帯数は 5445 万世帯で、平均世帯人数は 2.23 人（↓）である
- 核家族が、全世帯の 56.3%を占める

単独世帯	34.0%
夫婦と未婚の子のみの世帯	24.8%
夫婦のみの世帯	24.6%

- 65 歳以上の者がいる世帯数は、全世帯の 49.5%を占める

夫婦のみの世帯	32.0%
単独世帯	31.7%
夫婦と未婚の子のみの世帯	20.2%

1.3 出生と死亡（令和 5 年人口動態統計：厚生労働省）

	出生	死亡
数	72.7 万人（↓）	157.6 万人（↑）
率（人口千体）	6.0（↓）	13.0（↑）
特記事項	合計特殊出生率 1.20（↓） （15~49 歳の女性が生涯に産むこどもの数）	悪性新生物(38万人、24.3%) 心疾患(23万人、14.7%) 老衰(18万人、12.1%)

- 平均初婚年齢は、男性 31.1 歳、女性 29.7 歳
- 第 1 子出生時の母親の平均年齢は、31.0 歳
- 母親の出生率が最も高い年齢階級は、30-34 歳
- 悪性新生物の死因順位（死亡数）

	男性	女性
第 1 位	肺	大腸
第 2 位	大腸	肺
第 3 位	胃	膵

1.4 健康指標（令和4年国民生活基礎調査、令和5年患者調査：厚生労働省）

- 平均寿命とは、出生児（0歳）における平均余命（令和5年簡易生命表：厚生労働省）

	男性	女性
平均寿命	81.09 年	87.14 年
健康寿命	72.68 年	75.38 年

- 平均在院日数は、27.3日（精神が276.7日で最長）、一般病床は16.2日

有訴率（人口千対）	276.5 (65歳上で、418.2)	男女ともに 腰痛が最多
通院率（人口千対）	417.3 (65歳上で、696.4)	男女ともに 高血圧症が最多
受療率（人口10万対）	入院 960 90歳以上が最多 (精神及び行動の障害が最多)	外来 5658 男性80~84歳、女性75~79歳 (消化器系・歯の疾患が最多)

演習問題 A

問題 1 日本の令和 5 年（2023 年）の生産年齢人口の構成割合に最も近いのはどれか。

1. 40% 2. 50% 3. 60% 4. 70%

問題 2 令和 5 年（2023 年）の国民生活基礎調査で全世帯に占める 65 歳以上の者がいる世帯の割合に最も近いのはどれか。

1. 10% 2. 30% 3. 50% 4. 70%

問題 3 日本の令和 5 年（2023 年）の国民生活基礎調査における平均世帯人数はどれか。

1. 1.39 人 2. 2.39 人 3. 3.39 人 4. 4.39 人

問題 4 日本の令和 5 年（2023 年）の人口動態統計における合計特殊出生率に最も近いのはどれか。

1. 0.8 2. 1.3 3. 1.8 4. 2.3

問題 5 日本の令和 5 年（2023 年）の人口動態統計で、女性の死亡率が最も多い悪性新生物（腫瘍）の発生部位はどれか。

1. 肺 2. 子宮 3. 大腸 4. 乳房

問題 6 令和 4 年（2022 年）の患者調査で外来受療率が最も多い傷病はどれか。

1. 喘息 2. 糖尿病 3. 高血圧性疾患 4. 悪性新生物＜腫瘍＞

2. 法 律

2.1 地域保健法

- 法律は①法律名、②実施主体、③内容、④強制力を覚える
- 実施主体は、厚生労働省、都道府県、市町村がある
- 強制力には、義務、努力義務、任意がある

国	厚生労働省	政策立案と根拠法令
都道府県	保健所（義務）	専門的サービス（感染症、精神、難病）
市町村	保健センター（任意）	対人サービス（母子、成人、高齢者、障害者）

- 保健所は、都道府県、指定都市、中核市、特別区にも設置される

2.2 医療保険

- 国民皆保険制度であり、現物給付である
- 3割自己負担（就学前は2割、70歳～74歳まで2割自己負担）
- 健康診断、予防接種、正常分娩、美容医療は給付の対応外

被（雇）用者保険	国民健康保険
健康保険 （組合は大企業、協会は中小企業）	・ 誰でも加入可能である ・ 保険者は市町村と都道府県） ・ 保険料は市町村によって異なる
共済組合（公務員や教員）	
船員保険	

- 後期高齢者医療制度は、75歳以上は自己負担1割となる医療保険である
- 高齢者医療確保法にて規定されており、後期高齢者広域連合が保険者である

2.3 介護保険

- 市町村または特別区が保険者となり、現物給付である
- 要介護認定は、市町村の介護認定審査会が行う（都道府県は介護保険審査会）
- 要支援1,2（予防給付）と要介護1～5（介護給付）がある
- 介護サービスは原則1割自己負担であり、所得に応じて最大3割となる

演習問題 B

問題 7 医療保険の給付の対象となるのはどれか。

1. 疾病の診察 2. 人間ドック 3. 市販薬の購入 4. 定期予防接種

問題 8 国民健康保険の保険者に含まれるのはどれか。

1. 後期高齢者医療広域連合 2. 共済組合 3. 都道府県 4. 国

問題 9 地域包括支援センターの主な業務に含まれるのはどれか。

1. 特定健康診査・特定保健指導 2. 予防接種法に基づく予防接種
3. 介護予防ケアマネジメント 4. 要介護認定調査

問題 10 医療法に規定されている診療所とは、患者を入院させるための施設を有しないもの又は（ ）人以下の患者を入院させるための施設を有するものをいう。（ ）に入る数字はどれか。

1. 17 2. 18 3. 19 4. 20

3. 基礎看護

1.1 病床環境

- 室温は夏が $24 \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、冬が $20 \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、湿度は夏が 45~65%、冬が 40~60% が望ましい
- 照度は、100~200 ルクス、音は、40~50dB 以下とする
- 窓の大きさは、床面積の 1/7 以上とする
- 床面積は 6.4m^2 /床以上、多床では 4.3m^2 /床以上とする（医療法施行規則）

1.2 経鼻胃管栄養

- 半座位（ファースター位）にて注入し、食後 2 時間まで保持する
- チューブの長さは、鼻腔から 55~65cm とする頸部前屈で挿入して
- 胃液を吸引して位置確認を行い、栄養剤は常温で、20~30ml/時で滴下を開始する
- 注入後は、微温湯 20ml を注入し、必ず口腔ケア（肺炎予防）を行う

1.3 導尿

- 無菌操作は、導尿と気管内吸引で行う
- 膀胱留置カテーテルは成人にて 12~18Fr を使用し、滅菌蒸留水でバルーンを拡張する
- カテーテル挿入中でもシャワー浴は可能であり、バッグを腰より低い位置とする

	男性	女性
挿入の角度	90°	0°
挿入の長さ	18~20cm (持続導尿では 20~23cm)	5~7cm (持続導尿では 7~9cm)
固定	下腹部	大腿内側

1.4 浣腸

- 立位は禁忌（直腸穿孔リスク）で左側臥位にて行う（内視鏡と妊婦も左側臥位）
- 40~41°Cに温める（入浴、清拭タオル、洗髪、足浴、陰部洗浄なども 40°C）
- 50%グリセリン液（1ml/kg が基本）で、50mL/15秒程度で注入する
- 3~5 分こらえて排便する（便を柔らかくして、腸管を刺激して排便を促す）

1.5 気管吸引

- 12~14Frのカテーテルを使用して、無菌操作にて15~20cm挿入する
- 150mmHg以下にて、圧をかけずに挿入して、吸引時間は10秒以内とする

1.6 注射・採血

- 注射は、静脈内>筋肉内>皮下>皮内の順で発現速度が早い
- 筋肉注射は45~90度にて刺入し、皮下注射は持ち上げて10~30度で刺入する
- 肘正中皮静脈（ちゅうせいちゅうひじょうみゃく）から採血を行うことが多い
- 21~23G の針で、30° の角度で刺入する（21G の方が太い）
- 穿刺部位の 7~10cm 中枢側を駆血して 60 秒以内を目安として採血を完了する
- 駆血帯を外して、抜針と圧迫止血を行い、リキャップせずに圧迫止血する

演習問題 C

問題 11 病室の湿度で適切なのはどれか。

1. 10% 2. 30% 3. 50% 4. 70%

問題 12 1回の鼻腔内吸引で陰圧をかける時間の目安として適切なのはどれか。

1. 10 秒以内 2. 20～25 秒 3. 30～35 秒 4. 40～45 秒

問題 13 医療法施行規則に定められている病院の一般病床における患者人に必要な病室 床面積はどれか。

1. 3.4 m² 以上 2. 4.4 m² 以上 3. 5.4 m² 以上 4. 6.4 m² 以上

問題 14 無菌操作が必要なのはどれか。

1. 浣腸 2. 気管内吸引 3. 口腔内吸引 4. 経鼻胃管挿入

問題 15 男性の導尿でカテーテルを挿入するとき、体幹に対する頭部側からの挿入角度はどれか。

1. 0～10 度 2. 40～50 度 3. 80～90 度 4. 120～130 度

4. 人体疾病

演習問題 D

問題 16 成人の食道の構造で正しいのはどれか。

1. 胃の幽門につながる。
2. 上 1/3 が平滑筋である。
3. 生理的狭窄部位がある。
4. 長さは約 45 c m である。

問題 17 胆汁の作用はどれか。

1. 脂肪の乳化
2. 蛋白質の分解
3. 胃酸分泌の促進
4. 炭水化物の分解

問題 18 胃癌の Virchow（ウィルヒョウ）転移が生じる部位はどれか。

1. 肺
2. 肝臓
3. ダグラス窩
4. 左鎖骨上窩

問題 19 食品を扱う人の化膿した創が汚染源となる食中毒の原因菌はどれか。

1. 腸炎ビブリオ
2. ボツリヌス菌
3. 黄色ブドウ球菌
4. サルモネラ属菌

問題 20 尿中ケトン体が陽性になる疾患はどれか。

1. 痛風
2. 肝硬変
3. 糖尿病
4. ネフローゼ症候群

5. 薬理学

5.1 抗菌薬

- 抗菌薬は細菌に効く薬剤であり、ウイルスや真菌には効かない

ペニシリン系	グラム陽性菌への適応が広く、ペニシリンアレルギーに注意する
セフェム系	大腸菌などのグラム陰性菌へ適応が広く、髄膜炎治療にも用いる
グリコペプチド系	バンコマイシン塩酸塩が MRSA に対して抗菌機能を有する
アミノグリコシド系	ストレプトマイシンにて内耳神経障害と腎障害のリスク

5.2 交感神経作動薬

- アナフィラキシーショック時には、アドレナリンを大腿四頭筋に筋注して揉む

アドレナリン	心収縮力を強め、血圧を上昇させ、気管支を拡張する
ノルアドレナリン	血管を収縮させ、血圧を上昇させる

5.3 副交感神経作動薬

- コリン作動薬は、副交感神経を有意にする（抗コリン作動薬は、副交感神経抑制）
- 抗コリン作動薬は、アトロピンが代表的で、分泌液や消化管蠕動運動の抑制がある
- 抗コリン作用では、排尿困難・便秘・眼圧上昇・口渇などの症状がある

5.4 抗炎症薬

- 非ステロイド性炎症薬を NSAIDs と呼び、解熱・鎮痛・抗炎症作用があり、副作用としては胃腸障害や出血傾向がある（アセトアミノフェン解熱鎮痛のみで NSAIDs でない）
- ステロイドの副作用は、精神症状・眼圧上昇・満月様顔貌・水牛様肩・高血圧・血糖値上昇・易感染・消化器潰瘍・多毛・骨粗鬆症・月経異常などである。

非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs)	アスピリン、インドメタシン、ジクロフェナクナトリウム (ロキソニン)、セレコキシブなど
副腎皮質ステロイド薬	プレドニゾロン、デキサメタゾン

5.5 抗血栓薬

抗血小板薬	アスピリン (NSAIDs)
抗凝固薬	ヘパリン (注射)、ワーファリン (内服、ビタミン K 控える)
血栓溶解薬	t-PA (発症 4.5 時間以内の脳梗塞にて血栓溶解する)

演習問題 E

問題 21 抗菌薬について正しいのはどれか。

1. ウイルスに有効である。
2. 経口投与では効果がない。
3. 耐性菌の出現が問題である。
4. 正常の細菌叢には影響を与えない。

問題 22 心静止の患者に投与する薬剤はどれか。

1. ドパミン
2. アトロピン
3. リドカイン
4. アドレナリン

問題 23 インドメタシン内服薬の禁忌はどれか。

1. 痛風
2. 咽頭炎
3. 消化性潰瘍
4. 関節リウマチ

問題 24 手術予定の患者が服用している場合、安全のために術前の休薬を検討するのはどれか。

1. 鉄剤
2. 抗血小板薬
3. 冠血管拡張薬
4. プロトンポンプ阻害薬

問題 25 緑内障患者への投与が禁忌なのはどれか。

1. コデイン
2. アスピリン
3. アトロピン
4. ジゴキシシン
5. フェニトイン

2025-2026年版



第115回看護師国試対策



STUDY LAB オンライン講習会

昨年度は3,000人以上が参加し、講習会は即満席になるほどの人気講座となりました。テキストに記入しながら、楽しく学習していくスタイルが好評で、新卒・既卒・准看護師に関わらず多くの方が合格しました。人生を変える講義体験を！アロハ組でお待ちしています！

総合対策パッケージ

16,500円
(税込)

すべて見放題の“スタラボ国試対策フルパッケージ”コースです。これから本格的に国試対策を始めたい方も苦手分野を効率よく克服したい方もこの1つで安心して学習を進められる内容になっています。

- ✓ 有料版・定期ライブ講習会【前期14回】+【後期10回】
- ✓ 基礎講座動画が見放題 ※人体・疾病の講義動画が60本以上
- ✓ 夏季特別講習会も含めて、オンデマンドで繰り返し見られます！
- ✓ 参加者人数限定の特別講習会の優先参加権



◆◆◆ 月2回 定期無料ライブ講習会 ◆◆◆

頻出の疾患を軸に、人体をわかりやすく総まとめします。国家試験だけでなく授業や実習はもちろん、将来の臨床にも役立つ内容です。

- 第2・第4木曜日 20:00 - 22:00
(前期：4-10月／後期：11-2月)

特設ページは
コチラから

無料版 事前申し込み制・YouTubeライブ配信視聴

有料版 Zoomウェビナー参加・アーカイブ視聴可能
前期・後期：各8,800円(税込)



講師：岡田 悠偉人 先生（アロハ先生）

ハワイ大学で研究と教育を行っており、ハワイ州知事室やアマゾン日本でもアドバイザーを務める。大手予備校にて国試講師として全国トップになるが、アメリカ移籍に伴い講師を引退した。コロナ禍で日本の後輩たちに貢献したいと思い、オンライン講座を開始した。看護師・保健師・米国疫学専門家（疫学博士）趣味はトライアスロン、コーヒーとクラフトビール

各種SNSは

↓コチラ↓



LINE 公式アカウント
友だち募集中

登録特典で【過去問解説動画】を
プレゼント！国試対策の最新情報や
LINE限定の特別動画を配信していきます。スタディーボ

